



A13  
4471  
2



切く暗窓下

嘯と深草裏

秋天思婦心

雨夜出人耳

まろむぐと

いそこれかたそ  
秋の萩乃

まがさ  
うみ

林の萩乃  
まがさ  
うみ





林間煖酒焼

紅葉

石上題詩拂

緑谷

秋ハカ成

ゆまがれ  
こそ

きこる糸

萩乃下露

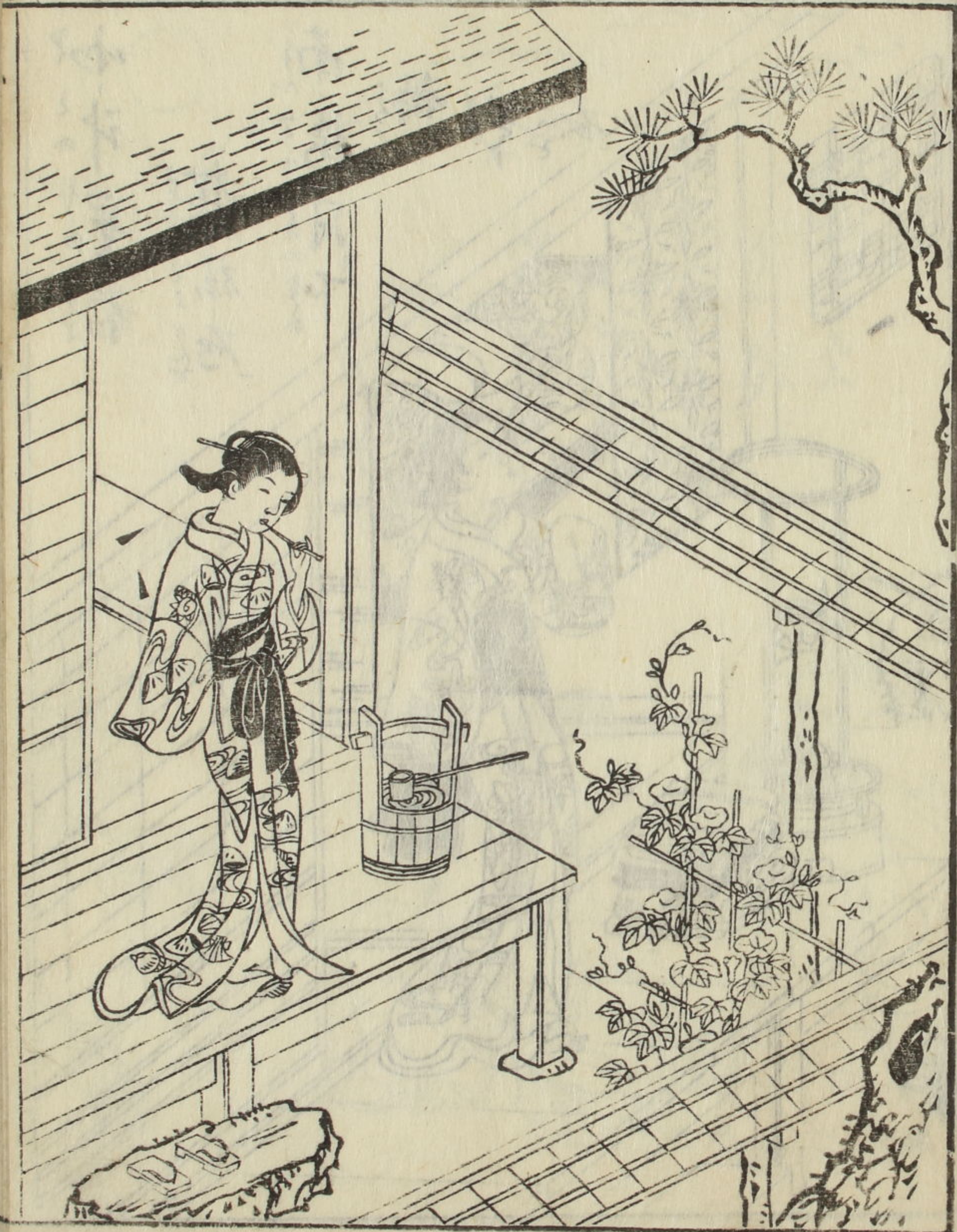
萩の下露



窓中  
 かり  
 くれ



岩山表裏  
 千重雪  
 浴水有佐  
 兩顆珠  
 水の面  
 てる月  
 るる風  
 かぞふまきバ  
 うらんど  
 林の



松<sup>マツ</sup>栴<sup>シロ</sup>千<sup>チ</sup>年<sup>ネン</sup>終<sup>ハシ</sup>是<sup>コト</sup>朽<sup>ク</sup>  
 槿<sup>キキョウ</sup>花<sup>ハナ</sup>一<sup>ヒト</sup>日<sup>ニチ</sup>自<sup>ミヅカ</sup>為<sup>ル</sup>棠<sup>トウ</sup>

わさげが狐

たふさうねいせしりん

人をもむ

さうせしんせしん



かゝるるま

うりま

さけ

月きよみ

ゆごゆね

を

はく

小汁星茶

横旅石

南橋月下

持衣

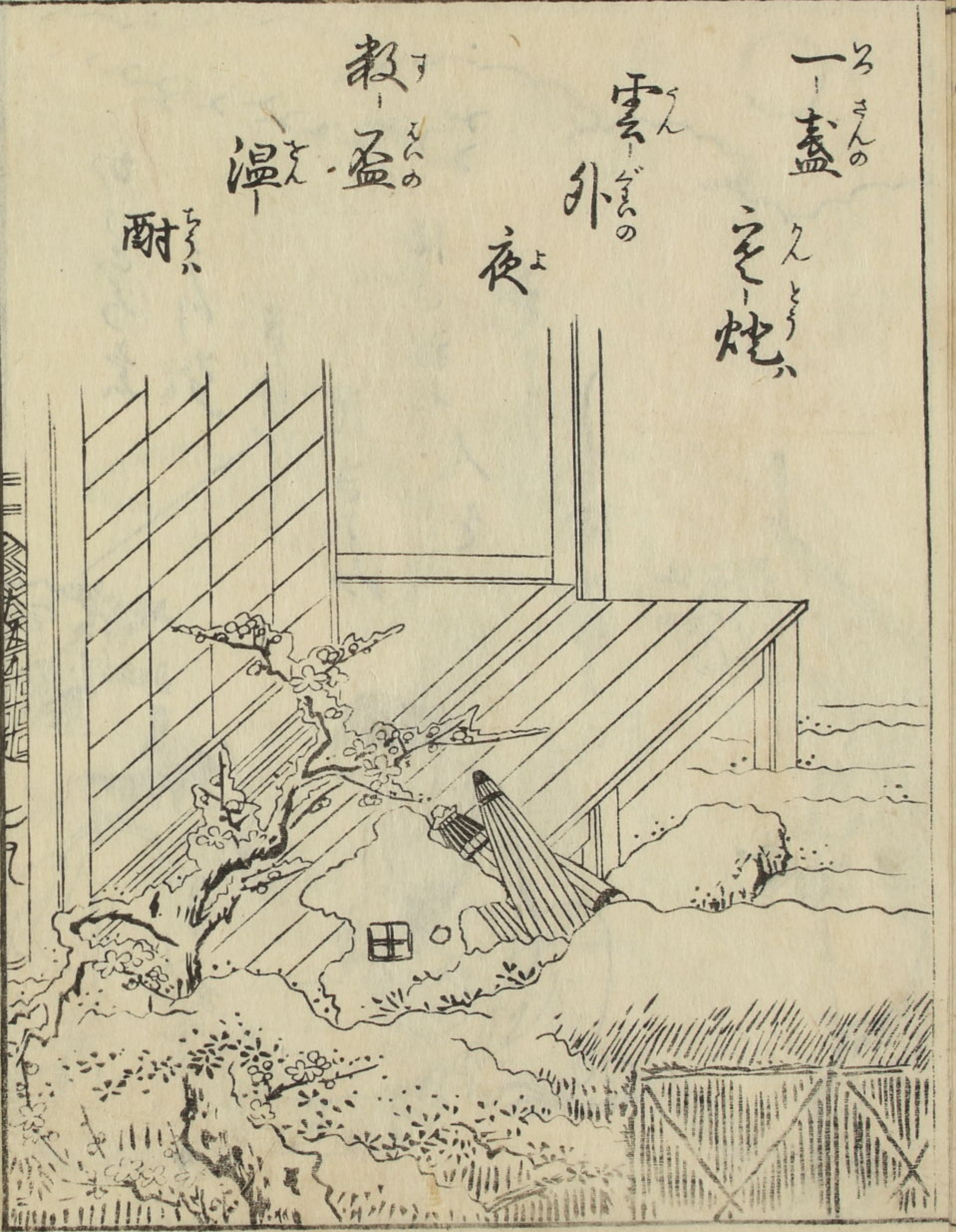




雪 ゆき

中 ちゅう

春 はる



一盞 いちざん

を を  
 焼 や

雲外 うんがい

夜 よ

教益 きょうえき

耐 たい

温 ぬる



山遠雲

埋行客

松寒風

破旅人

夏

跡





西<sup>さい</sup>施<sup>し</sup>が

顔<sup>かほ</sup>色<sup>いろ</sup>

今<sup>いま</sup>

何<sup>なに</sup>在<sup>あ</sup>り

顔<sup>かほ</sup>

互<sup>あ</sup>い

春<sup>はる</sup>風<sup>かぜ</sup>

百<sup>ひゃく</sup>草<sup>そう</sup>

頭<sup>かぶ</sup>



あつちの  
つらつら  
の  
あつちの  
つらつら  
の

の  
あつちの  
つらつら  
の

あつちの  
つらつら  
の



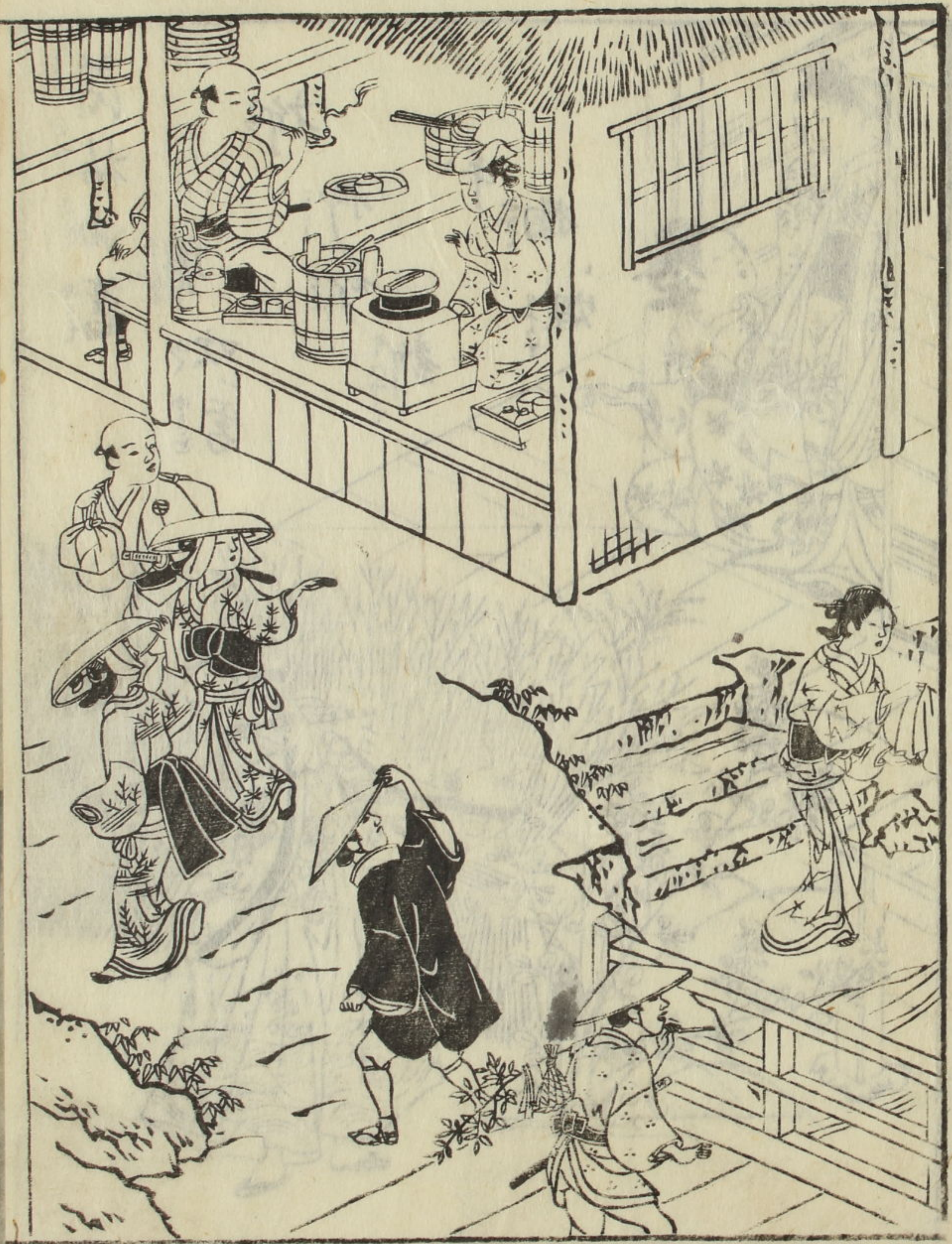
雙  
の  
あつちの  
つらつら  
の  
あつちの  
つらつら  
の  
あつちの  
つらつら  
の  
あつちの  
つらつら  
の

あつちの  
つらつら  
の









山成  
 斜陽裏  
 水似迴流  
 迅瀨  
 向背  
 間急

極中  
 三月廿五日



